



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『干渉論』の訳語
Author(s)	朴, 均轍
Citation	国語国文研究, 115, 56(1)-45(12)
Issue Date	2000-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94680
Type	journal article
File Information	kokugokokubunkenkyu_115_56-45.pdf



『干渉論』の訳語

朴 均 轍

1 はじめに

幕末明治期には西洋文物の流入に伴って翻訳作業も活発に行われており、この時期に刊行された翻訳書は訳語研究において良い資料である。翻訳書には一種しかないものもあれば、一つの原典が違う時期に何度も翻訳されたものもある。しかしながら、明治初中期に何度も翻訳された例は少なく、その意味で『干渉論』は、訳語研究の資料として好都合であると思われる。というのは、『干渉論』が明治13年、明治22年、明治26年の三回にわたって翻訳が行われており、訳語の非定着期といわれる明治初中期に、同じ原語に当てられた訳語の変化を見ることができるからである。

本稿では、三種の『干渉論』のうち、明治13年に刊行されたもの（以下「M13年本」と称す）と明治26年に刊行されたもの（以下「M26年本」と称す）のみを取り上げ、「M13年本」の資料的意義、両本における訳語の改変の意義及び性格、訳語における翻訳書と対訳辞書との影響関係の推移などを明らかにしたい。

2 資料について

『干渉論』は、H. SPENCER (1820-1903)の *OVER LEGISLATION* (1853年) を訳した翻訳書である。著者は、19世紀イギリスの哲学者・社会学者として、社会進化論・自由放任主義で有名であり、彼の諸著作は明治10～20年代の日本で自由民権運動の思想的よりどころとして迎えられ、数多くの訳書が出版された。「survival of the fittest」(適者生存) は、彼の造った語である。翻訳書には以下の三種がある。

表1 『干渉論』の諸本

書名	『干渉論』	『干渉政治論』	『干渉論』
刊行年	明治13年(1880)	明治22年(1889)	明治26年(1893)
訳者名	鈴木義宗	鈴木義宗	越川文之助
頁数	114 p	114 p	115 p
蔵本	三重大学	国立国会図書館	国立国会図書館

訳者の鈴木義宗は、三叉学舎に英学を修め、印刷会社を設立して漢書・史記などの

漢籍を出版したことがある。著作に『代議政体論』、『百人一詩』、『新撰天文学』など十数種ある。同訳者は明治13年と明治22年に訳書を出しており、題名は異なるが原典としたのは両本とも *OVER LEGISLATION* である。両本を比較してみたところ、内容はほぼ同じであり、相違点と言えば、

「M 13 年本」		「M 22 年本」
地位ヲ得タリトスルモ	→	地位ヲ得ルトスルモ
私家ノ行為ニ影響セシメ	→	私家的ノ行為ニ影響セシメ
其決定ノ難キハ	→	其決定ノ容易ナラザルハ

のように、用字・用語において若干の変化を見せるのみである。それに対し、「M 13 年本」と「M 26 年本」の間には、かなり改変が見られる。そこで本稿では、両本のみを取り上げて考察を試みる。

3 訳語の改変について

対象訳語の抽出にあたっては、原語に明らかに対応する訳語が両本共通に見られるもののみを選び、全 236 の原語に当てられた訳語が得られた。その結果は、次の通りである。

- A 両本における訳語の改変がない語…………… 152 語 (64.4%)
 - a 現代語と一致する語 (生存語)¹⁾…………… 117 語 (77.0%)
 - b 現代語と一致しない語 (死語) …………… 35 語 (23.0%)
- B 両本における訳語の改変がある語…………… 84 語 (35.6%)

改変のない語が 6 割強であり、そのうち生存語が 8 割弱を占めていることがわかる。以下、A、B の二つに分けて考察を加える。

3.1 両本における改変のない語

両本における訳語の改変がない語、つまり「M 26 年本」が「M 13 年本」の訳語をそのまま受け入れたものは 152 語であり、そのうち生存語は 117 語、死語は 35 語である。「M 13 年本」が訳語の非安定期である明治 10 年代初期の訳書にもかかわらず、「M 26 年本」との一致訳語が 6 割強を占めており、うち生存語は 8 割近くもある。それに、生存語の約半分位は対訳辞書にも見られない語であること、「M 22 年本」に訳語の改訂がほとんどないことを考え合わせると、鈴木義宗の選択眼が優れていることがわかる。以下、現代語と一致する語と現代語と一致しない語とに分けて考察する。

3.1.1 現代語と一致する語

現代語と一致する語とは、「M 13 年本」に使われていた訳語が「M 26 年本」にもそ

のまま取り入れられ、今まで生き延びた語であり全部で 117 語ある。全例を示すと、次の通りである。

裁判(Judicial)、法律(Law)、国家(Nation)、損害(Injury)、干渉(Meddling)、政策(Policy)、資金(Fund)、要求(Demand)、時間(Time)、高等法院(Chancery)、監督(Superintendence)、国法(Law)、治療(Cure)、立法(Legislation)、信仰(Belief)、革命(Revolution)、教師(Teacher)、生徒(Pupil)、人類(Human)、個人(Individual)、大陸(Continent)、貿易(Trade)、殖民(Colonization)、人種(Race)、商業(Trade)、温度(Temperature)、組合(Union)、教育(Education)、投票(Polling)、学校(School)、政治(Political)、手形(Bill)、施行(Administration)、不幸(Misery)、不公平(Inequitable)、地主(Landlord)、乗客(Passenger)、規則(Regulation)、不規則(Irregularity)、確實(Certain)、住家(Dwelling)、場合(Case)、抑圧(Oppression)、機会(Occasion)、弊害(Abuse)、理由(Reason)、結果(Effect)、希望(Hope)、熟慮(Consideration)、作用(Action)、反覆(Repeat)、生涯(Life)、習慣(Habit)、要求(Request)、傍観者(Spectator)、近代(Modern)、成功(Success)、変化(Modification)、比例(Proportion)、子孫(Descendant)、計画(Project)、資本(Capital)、原因(Cause)、反対(Contrast)、順序(Order)、製造(Manufacture)、地球(Earth)、真理(Truth)、発見(Discover)、消費(Consumption)、上院(House of Lords)、概算(Estimate)、賄賂(Douceur)、病院(Hospital)、建築(Build)、伝染病(Epidemic)、経験(Experience)、社会(Society)、鉄道(Railway)、機関(Agency)、主権(Sovereignty)、行為(Action)、重力(Gravitation)、方向(Direction)、会社(Firm)、現象(Phenomena)、演説(Speech)、自由(Liberty)、需要(Demand)、供給(Supply)、労働者(Labour)、新聞(Newspaper)、銀行(Bank)、保険(Insurance)、警察(Police)、博物館(Museum)、世界(World)、動物園(Zoological garden)、交通(Communication)、積極的(Positive)、消極的(Negative)、影響(Effect)、成年(Adult)、発達(Development)、進歩(Progress)、電気(Electricity)、博覧会(Exhibition)、造物主(Creator)、内閣(Cabinet)、印刷(Print)、空気(Atmosphere)、政府(State)、隠蔽(Conceal)、紛争(Dispute)、依頼(Dependence)、気力(Energy)、考察(Contemplating)

(注:「M 13 年本」では、積極・消極に「一的」がついていないが、積極的・消極的と、意味は同じなので同じ語と見なす。)

以上の語は、現在でも一般的に用いられている言葉であり、現行の英和辞書を見れば、ほとんどの訳語が定訳となっている。それでは、当時の状況はどうであったかを以下の対訳辞書を用いて調べてみよう。

〈用いた対訳辞書〉²⁾

- ①『英和对訳袖珍辞書』(文久 2) ②『英華字典』(慶応 2 - 明治 2) ③『和英語林集成』(明治 5) ④『英和字彙』(初版、明治 6) ⑤『広益英和字典』(明治 7) ⑥『AN

ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY OF The Spoken Language』(初版、明治 9) ⑦『AN ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY OF The Spoken Language』(再版、明治 12)

調べた結果を、対訳辞書に載っているかどうかによって、以下の三つに分ける。

- ・全辞書にナシ…………… 43 語 (36.7%)
- ・全辞書にアリ…………… 5 語 (4.3%)
- ・一部の辞書にアリ…………… 69 語 (59.0%)

117 語のうち、対訳辞書に見られない語は、国家、干渉、資金、政策、時間、高等法院、組合、発見、近代、社会、機関、会社、現象、演説、労働者、新聞、警察、積極的、消極的、影響、成年、発達、印刷など 43 語である。これは訳者自身が辞書を参照せずに選んだ訳語として今まで使われている。

この 43 語に対し、『M 13 年本』以降に刊行された、次の三つの対訳辞書に載っているかどうかを調べてみた。『英和字彙』(再版、明治 15) には、社会 (Society)、現象 (Phenomena)、銀行 (Bank)、印刷 (Print)、時間 (Time) など 11 語が、『和訳字彙』(明治 21) には、演説 (Speech)、政府 (State) など 13 語が、『双解英和大辞典』(明治 37) には、会社 (Firm)、消極的 (Negative)、国家 (Nation)、抑圧 (Oppression)、要求 (Request)、計画 (Project) など 26 語が載っている。時代が下るにつれて一致する訳語が多くなっており、現行の英和辞書では、ほとんどが定訳となっている。これら一致する訳語が『M 13 年本』からの影響を受けたとは言いきれないものの、対訳辞書に先駆けて適切な訳語を使っていることに注目したい。

次に、五つの全辞書に載っている語は、病院 (Hospital)、子孫 (Descendant)、自由 (Liberty)、世界 (World)、電気 (Electricity) の 5 語であり、これは幕末・明治初期に既に定着していたことがわかる。残りの 69 語は、一部の辞書にのみ見られるもので、もちろん対訳辞書には競争関係にあった様々な訳語も採用しており、その中で訳者が選んだ訳語である。既に定着していた 5 語を除いた 112 語は、訳語として揺れていたか定訳が確立していなかった語であるが、今まで生き延びている。

次に、辞書に見られない 43 語を除いた 74 語に対し、辞書別の訳語の一致数を見ると〈表 2〉の通りである。

表 2 74 語と対訳辞書の訳語との一致数

対 訳 辞 書	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
一致訳語数	19	33	21	58	24	29	32

④『英和字彙』(初版)と一致する訳語数が圧倒的に多く、時期的に『M 13 年本』に近い⑦『AN ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY OF The Spoken Language』(再版、明治 12)との一致数より約 2 倍位を占めている。『英和字彙』(初版)は、森岡

氏の辞書分類では、第2期の代表的な辞書であり、同辞書が対訳辞書のみならず翻訳書にも大きな影響を与えたことがわかる³⁾。

次に、生存語のうち飛田・惣郷(1986)に載っている語を見てみよう。同辞典ではたくさんの用例とともに1,341の明治のことばを収録している。同辞典には、経験、社会、鉄道、機関、主権、行為、方向、会社、現象、自由、演説、需要、供給、労働者、新聞、保険、警察、博物館、世界、動物園、交通、積極的、消極的、影響、成年、発達、進歩、博覧会、内閣、印刷、空気、造物主、銀行、電気、重力の35語が載っている。同辞典が全ての新語を収録しているわけではないので、『干渉論』にはもっと多くの新語が入っているようである。35語のうち、対訳辞書に見られない語は、社会、機関、現象、会社、演説、労働者、新聞、警察、積極的、消極的、影響、成年、発達、印刷の14語である。これらの訳語は、「M26年本」にも引き継がれ、今まで生き延びている。

特に「消極的」と「積極的」とは、早くから現在と同じ意味として使われている。この二語に対し、実際の使用例を両本から拾ってみよう。

To the immense positive evils entailed by over-legislation have to be added the equally great negative evils-evils which, notwithstanding their greatness, are scarcely at all recognized, even by the far-seeing.

「M13年本」

茲ニ政府干渉ノ為メニ生スル不測ノ積極患害ト重大ナル消極患害(重大ナルニモ拘ラス遠慮者ト雖ドモ多クハ認知セサル……)

「M26年本」

立法干渉ハ積極的不測ノ害ヲ生ズルノミナラズ同時ニ不測ノ消極の患害ヲ并發スル者ナリ。抑モ此消極の弊害ノ如キハ遠識アル達人ト雖モ容易ニ認知スル……

「M13年本」では消極が使われているが、意味は電気の陰極ではなく、否定や陰の状況を示す消極的であると考えられる。特に消極の用例⁴⁾は、辞書では明治初期から見られるものの、現在と同じ意味で使われるのは、

陰電気の陰の方(うけみの意に広く用ゐる)「一的」。(『訂増中等作文辞典』、明治38)

陰電気というに同じ、うけみの意に広く用ゐる。(『熟語新辞典』、明治40)

のように、明治40年頃になってからである。

次に「消極的」の用例を見ると、

せききよくてきを見よ。⇒せききよくてき 積極的。消極的に対する語。これを対照すれば、これは集合的にして、彼は分解的であり。また、これは増大的にして、彼は減少的なり。(下略) (『ことばの泉』、明治31)

のように、明治30年頃から見られており、それから考えると『干涉論』の用例は、相当早い例である。

3.1.2 現代語と一致しない語

両本の共通訳語のうち現代語と一致しない語、つまりほとんど使わなくなった語は、次の36語である。括弧内の漢語は、今日一般的に使われている訳語である。

権理(Right 権利)、撰挙(Election 選挙)、検査(Inspection 検査)、詐偽(Fraud 詐欺)、患害(Evil 害悪)、迷誤(Delusion 迷妄)、賃銀(Wage 賃金)、力役者(Labour 労働者)、古礼学(Heraldry 紋章学)、刺衝(Stimulus 刺激)、立法院(Legislative 立法院)、理会(Understand 理解)、管主(Agent 代理人)、肆店(Office 事務室)、幸福(Comfort 安心)、人民(Man 人、人間)、商法(Commerce 通商)、農民(Agriculturist 農学者)、福祉(Happiness 幸福)、承認(Assure 保証)、簡便(Easy 容易)、有害(Vicious 悪徳)、惨苦(Cruelty 残酷)、制度(Regulation 規則)、自立者(Self-made man)、神速(Rapid 迅速)、妨害(Harm 損害)、失敗(Disappointment 失望)、勢威(Power 能力、権力)、証左(Evidence 証拠)、私家(Private 私立、民間)、智識(Intellect 知識)、愁訴(Petition 請願)、大学校(University 大学)、痴漢(Fool 愚人)、熱望(Enthusiatic 熱心)

以上の語は、明治26年頃まで定訳がなく揺れていて、何らかの理由でほとんど使わなくなった語である。これらの訳語の性格を明らかにするために、原語に対する意味として適切かどうかによって二分し考察を試みる。

まず、訳語として不適切であったと思われる語に、幸福、商法、福祉、承認、制度、妨害、失敗、勢威、痴漢、熱望、農民などがある。これは、現行の英和辞書に載っていないものの、国語辞書には載っており、現在もよく使っている語である。従って、ある意味では生存語とも言えるが、原語が絡んでくると訳語としてはほとんど使わない。明治初期の訳者達は翻訳の能力は十分あったものの、現代のように定訳が確立されている時代でもなかったため、このように当て方の不適切なものもあったのではないと思われる。

次に、訳語としては適切であったと思われるが何らかの理由で別の語に代わったものとして、権理、撰挙、検査、詐偽、患害、迷誤、賃銀、力役者、古礼学、刺衝、立法院、理会、管主、肆店、人民、簡便、有害、惨苦、自立者、神速、証左、智識、愁訴などを挙げることができる。これは、現行の英和辞書に載っていないものの、国語辞書には載っている語もかなりある。特に『日本国語大辞典』では、一つの見出しに漢字の両方を載せている語として、権利／権理、賃金／賃銀⁹⁾、知識／智識がある。今日訳語としては前者の権利、賃金、知識を用いているが、賃銀は1950年頃までは用いていたし、智識は仏教用語として用いる。選挙／撰挙、検査／檢査、詐欺／詐偽、理解／理会は、音が同じく意味もほぼ同じであるものの、撰挙と検査は死語となり、詐偽と理会とは、若干異なる意味として使われている⁹⁾。力役者と古礼学と私家は、それ

ぞれ労働者と紋章学と民間に代わる。普段は使わないが特殊な場合に使っている語として立法院があり、中華民國国民政府の最高の立法機関⁷⁾を指す場合には使う。他も意味は現代語とほぼ同じであるが、ほとんど使わなくなった訳語である。

3.2 両本における改変のある語

3.2.1 単語訳から単語訳への改変

ここでは、単語から単語に代わった 82 語に対し、以下の 13 種の対訳辞書を用いて一致する訳語の有無を調査し、改変のある訳語と対訳辞書との関係を通して当時の訳語の現状を探ってみたい。

〈用いた対訳辞書〉

- ①『英和对訳袖珍辞書』（文久 2）
- ②『英華字典』（慶応 2－明治 2）
- ③『和英語林集成』（明治 5）
- ④『英和字彙』（初版、明治 6）
- ⑤『広益英倭字典』（明治 7）
- ⑥『AN ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY OF The Spoken Language』（初版、明治 9）
- ⑦『AN ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY OF The Spoken Language』（再版、明治 12）
- ⑧『哲学字彙』（初版、明治 14）
- ⑨『英和字彙』（再版、明治 15）
- ⑩『訂増英華字典』（明治 17）
- ⑪『哲学字彙』（再版、明治 17）
- ⑫『英和双解字典』（明治 19）
- ⑬『和訳字彙』（明治 21）

〈凡例〉

- ・×→辞書に一致する訳語がない。
- ・○→辞書に一致する訳語がある。
- ・訳語に下線が引いてあるのは生存語である。

表 3

原 語	①②③④⑤⑥⑦	M13年本	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬	M26年本
Intelligence	○×○×○○○	才智	××××××××××××××	才識
Truth	×○×××××	真正	××××××××××××××	<u>正当</u>
Belief	×××××××	敬崇	××××××××××××××	<u>信奉</u>
Philosopher	×××××××	理学家	○××○×××××××○	理学者
Cautious	○○×○○×	謹慎	××××××××××××××	謹慎周密
Thinker	×××××××	<u>思想家</u>	××××××××××××××	考察家
Unexpected	×○×○××	<u>意外ノ</u>	××××××××××××××	意想ノ
Source	×××××××	因由	××××××××××××××	<u>源因</u>
Teach	○○○○○○○	教フル	××××××××××××××	覚知
Paper	××○○××	<u>新聞紙</u>	××××××××××××××	<u>新聞</u>
Corruption	×××××××	失行	××××××××××××××	敗行
Burlesque	×××××××	嘲弄スル	××××××××××××××	嘲笑スル
Act	×○××××	条例	××××××××××××××	条令
Parliament	××××××	議事院	××××××××××××××	議院
Preach	××××××	宣名	×○××××××○×××	<u>宣伝</u>
Trust	×○×○×○	<u>信ズル</u>	××××××××××××××	依信スル
Invalid	××××××	患者	×××○××××○××○	病者

原 語	①②③④⑤⑥⑦	M13年本	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬	M26年本
Bungle	×××××××	拙ナル	××××××××××××	拙劣ナル
Gun	×××××××	大砲	×○×××××××○×××	大砲
Admiral	×××××××	船将	××××××××××××	艦長
Mistake	×××××××	誤見	××××××××××××	謬見
Mismanagement	×××××××	失錯	××××××××××××	失政
Private	×○×××××	私家	×××××××××××○	民間
Enterprise	×××××××	企謀	××××××××××××	企業
Slight	×××××××	輕侮	××××××××××××	蔑視
Pain	×××××××	難苦	××××××××××××	痛苦
Servant	○○××○××	奴僕	××××××××××××	僕隸
Minor	×××××××	些細	××××××××××××	些末
Selfishness	×○××○○○	私欲	×○×××○○○○○○○×○	私慾
Engineer	×××××××	築工	×××××××××××○	土木師
Prevent	×××××××	防御	××××××××××××	予防
Agree	×××××××	明認	××××××××××××	承認
Captain	○××○○○○	船将	×××××××××××○×	船長
Registration	×××××××	記録	××××××××○××○○	登記
Proximate	×××××××	接近ノ	×○×○××××○○○○×	最近ノ
Immediate	×××××××	接近ノ	×××××××○○×○○○	直接ナル
Health	××××××○	健康	○×○○○×○×○×××○	健康
Illegitimate children	×××××××	私生兒子	××××××××××××○	私生児
System	×××××××	仕組	×××××××××××○	組織
Catalogue	×××××××	列品録	○○○○○○○○×○○×○○	目錄
Cease	×××××××	棄捐	××××××××××××	廃棄
Birth	×××××××	出所	××××××××××××	族望
Intrigue	×××××××	密謀	××○○××××○××○○	陰謀
Economical	×○○○×××	節儉	××××××××××××	節約
Perjury	×○×××××	妄誓	×○×○××××○○×○○	仮誓
Director	×××××××	管理官	××××××××××××	督理官
Inspector	×××○×××	検査官	××××××××××××	檢察官
Prime minister	×××××○○	大政大臣	××××××××××××	宰相大臣
Guard	×××××××	警夫	××××××××××××	監督者
Check	×××××××	証文	×××××××××××○	小切手
Astound	×××○×××	驚愕	×××××××××○××	驚動
Bankruptcy	×○×××××	倒行	×××○×○○×○××○○	破産
Digest	×××××××	類集	×××○××××○○×○○	要略
Petition	×××××××	歎願書	××××××××××××	請願書
Remedy	×××○×××	救助	×××××××××××○	救済
Experience	×××××××	実檢	×××××××××××○	実験
Remove	×××××××	除去	××××××××××××	廃除
Prejudice	×××××××	臆測	×○×○×××○○○○○○○	偏見
Anomaly	×○×○×××	不合理	××××××××○×××	不条理
Trustworthy	×××××××	倚頼	××××××××××××	依信
Construct	×××××××	計画	××××××××××××	設計

原 語	①②③④⑤⑥⑦	M13年本	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬	M26年本
Issue	×××××××	刊行	×××××××××××××	発刊
Fallacy	×××××××	過失	×××××××××××××	誤謬
Article	×××××××	物産	×××××××××××○×	物品
Infant-school	×××××××	幼童教育所	×××××××××××××	尋常小学校
Christianity	×××××××	宗教	×××××××○○○○○○○	基督教
Subpoenas	×××××××	呼出状	×××××××××××××	召還状
Enumerate	×××××××	挙示	×××××××××××××	列举
Lunatic asylum	×××××××	顛狂院	×××××××××××××	顛狂院
Function	×○○××○○	職分	×××××××××××××	職務
Timidity	×××××××	畏惧	×○×○××××○○×○○	畏懼
Mechanics	×××××××	工業	×××××××××××××	工学
Self-dependence	×××××××	自頼	×××××××××××××	自立
Compensate	○○×○○○○	償フ	○×××○×××××××	償補スル
Argument	×××××××	論弁	○×○○○○○×○○×○○	議論
Proof	×××××○○	証跡	××××××××××××	証徴
Understand	×××××××	了会	○×××○×××××××	了解
Recognize	×○×○×○○	認メル	×○×○××××○○×○○	認識スル
Future	×××××××	向來	×○×○××××○○×○○	将来
Fear	×××××××	憂苦	××××××××××××	憂慮
Ruler	×××××××	司治者	×○×××××××○×××	主治者
Forbid	×××××××	制禁スル	○○○○○○○×○○×○○	禁ズル

(注:「禁ズル」など動詞類、「以外ノ」など形容詞類は、『英華字典』に同形の語が載っていないので、漢字の部分のみ(つまり「禁」、「意外」)一致していれば同じ語と見なす。)

82 の訳語のうち対訳辞書に見られない語が、「M 13 年本」には 60 語、「M 26 年本」には 48 語もある。これらは辞書に影響されていない語と言えるもので両本とも多く、特に「M 13 年本」の方が多いが、これは当時の訳語が安定していなかったことを物語っている。明治 20 年代になると訳語が比較的現代語に近づいてくるが、「M 26 年本」の訳語と対訳辞書との一致数をもっと多くなるのも、この傾向と無関係ではなからうと思われる。次に、対訳辞書と一致する訳語を辞書別に調べてみると〈表 4〉、〈表 5〉の通りである。

表 4 「M 13 年本」の訳語と対訳辞書の訳語との一致数

対 訳 辞 書	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
一致訳語数	6	16	5	12	7	10	11

「M 13 年本」と一致する訳語が一番多いのは②『英華字典』(慶応 2－明治 2)である。②は英語に中国語を当てた辞書にもかかわらず、時期的に「M 13 年本」と近い⑦より多く、他の英和辞書よりも多い。同じ「M 13 年本」の訳語なのに、改変のない語

(3.1.1 参照) では④『英和字彙』との一致数が一番多く、改変のある語では②『英華字典』との一致数が多いのは何を意味するだろうか。それは『英和字彙』の方が定着しやすかったからではないだろうか。とにかく、これは当時の『英華字典』の影響力をうかがわせる⁸⁾。

表 5 「M26 年本」の訳語と対訳辞書の訳語との一致数

対 訳 辞 書	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
一致訳語数	6	12	5	15	6	5	6	4	20	15	5	19	25

「M 26 年本」では⑬『和訳字彙』(明治 21)と一致する訳語が一番多いが、これは訳語が比較的安定してくる明治 20 年代なので、時期的に一番近い⑬との一致する訳語が多いのは当然のことであろう。②『英華字典』(慶応 2 - 明治 2)、④『英和字彙』(初版、明治 6)、⑦『英和字彙』(再版、明治 15)との一致する訳語は依然として多い方である。

次に、生存語を数えてみると、「M 13 年本」には 15 語、「M 26 年本」には 35 語ある。「M 26 年本」の方が多いのは当然のことであろうが、生存語は比較的少なく、これは訳語が安定していなかったことを物語っている。特に改変のあった訳語の中には、かえって「M 13 年本」の訳語が生き延び、「M 26 年本」の訳語が死語となった例が 11 語もあり、これは当時の訳語の混乱の反映であると思われる。そして、両本の訳語がいずれも生き延びた語に、認メル→認識スルなど 4 語があり、これは同じ意味の別の語に代わったもので、訳語における時代差ではなく訳者の好みの違いと言えよう。

3.2.2 二種類の字順の両方が出ている語

こういう現象は幕末・明治期によく見られる現象であるが、ここでは二種類の字順が出ている語の中で、比較的頻度が高い FACT (事実/実事) と ERROR (誤謬/謬誤) を取り上げ、その変化を見ることにする。

表 6 両本における頻度数

	事 実	実 事	誤 謬	謬 誤
「M 13 年本」	5	7	1	3
「M 26 年本」	23	1	5	1

二つの語は「M 13 年本」においては、現代語と逆の語順が多いが、「M 26 年本」になるとそれが逆転し、現代語と同じ語順がほとんどを占めており、比較的安定していることがわかる。こういった現象を対訳辞書で詳しく調べてみると次のようになる。対訳辞書は前節の 3.2.1 で用いたもの(番号は同じ)に、⑭『双解英和大辞典』(明治 37)と⑮『哲学字彙』(三版、明治 45)を加える。

- ・ [FACT] ①ナシ②実事③実事④実事⑤ナシ⑥ jitsuji ⑦ jitsuji ⑧事実⑨事実⑩実事
⑪事実⑫事実⑬実事⑭事実⑮事実
- ・ [ERROR] ①ナシ②ナシ③ナシ④謬誤⑤ナシ⑥ナシ⑦ナシ⑧謬誤⑨誤謬⑩ナシ⑪謬
誤⑫謬誤⑬謬誤⑭謬誤⑮誤謬、謬誤

(注：下線の引いてあるのは、現代語と同じ字順の語)

対訳辞書では、Fact の訳語の場合比較的早い時期から安定していて、特に「M 13 年本」以前は「実事」しか載っていないが、以降は現代語と同じ字順の「事実」が多くなる。「M 26 年本」に一番近い⑬以降になると「事実」に固定してくる。Error の訳語をみると、⑮までも揺れ続けているものの、「M 26 年本」では「誤謬」を選んでいて、その選択は正しかったと言える。

4 おわりに

『干渉論』は、同じ原典が異なった時期(明治 10 年代と 20 年代)に訳されたもので、しかも、訳語の非安定期である明治初中期の訳語資料であるため、当時の訳語の現状を見る上で好都合の訳書であると思われる。特に、「M 13 年本」は社会科学分野の訳語を幅広く採用しており、それが対訳辞書及び「M 26 年本」に多く取り入れられ、現在までも生き延びている語が多いことから、訳者の選択眼が優れていたことをうかがわせる。

「M 13 年本」と対訳辞書との関係を見ると、改変のない語のうち生存語では、『英華字典』より『英和字彙』と一致する訳語が遙かに多く、改変のある語では『英和字彙』より『英華字典』との一致数が多い。この現象から当時『英華字典』の影響が大きかったとはいえ、『英和字彙』と一致する訳語の方がもっと定着しやすかったと言える。「M 26 年本」では、时期的に近い『英和双解字典』、『和訳字彙』と一致する訳語が一番多く、『英華字典』とか『英和字彙』の影響から離れていて、明治 20 年代となって訳語が比較的安定してきたと言える。

以上の、対訳辞書との関係を中心とした考察の結果は、あくまでも『干渉論』を通してみた、明治 10 年代と明治 20 年代における訳語の実状であり、他の翻訳資料にも当てはまるかどうかについては今後の課題としたい。

[注]

- 1) 生存語・廃語の判断に用いた資料は、以下の通りである。

□国語辞書

- ・『岩波国語辞典』(第 5 版、1995) 西尾実等編、岩波書店
- ・『新選国語辞典』(第 6 版、1993) 金田一京助等編、小学館

□英和辞書

- ・『New English-Japanese Dictionary 新英和大辞典』(1980) 小稲義男、研究社

- ・『スコットフォーズマン英和辞典』（1992）亀井俊介、角川書店
 - ・『COMPREHENSIVE English-Japanese Dictionary』（1999）旺文社編、旺文社
- 2）辞書の選択にあたっては、森岡（1969）の辞書分類に従い各時期を代表する辞書に、筆者の判断でいくつかを加えた。以下これに従う。参考までに、森岡健二氏の辞書分類をかいつまんでまとめると、次の通りである。
- ・第1期（明治5年以前）訳語の草分けの時代。訳語は英蘭辞書の影響下にある。代表的な辞書→『英和对訳袖珍辞書』（文久2）
 - ・第2期（明治6年－20年）イギリス系の辞書によった時代。訳語は英華辞書の影響下にある。代表的な辞書→『英和字彙』（初版、明治6）、『英和字彙』（再版、明治15）
 - ・第3期（明治21年－44年）アメリカ系の辞書が主として行われた時代。日本人独自の訳語が試みられる。現代語に非常に近づいてくる。代表的な辞書→『和訳英字彙』（明治21）、『和訳字彙』（明治21）
 - ・第4期（大正元年以後）英語学の全盛期。訳語はほとんど現代語だと見做される。代表的な辞書→『井上英和大辞典』（大正4）
- 3）『英和字彙』（初版）の辞書（特に、『哲学字彙』）への影響は、朴（1998）を参照されたい。
- 4）以下の用例は飛田・惣郷（1986）の「消極的」の項による。
- 5）『岩波国語辞典』（第5版、1995）によると、「ちんぎん」は、もともと多くは「賃銀」と書いたが1950年ごろから「賃金」と書くことが多くなったという。
- 6）、7）『日本国語大辞典』（1981、小学館）による。
- 8）参考までに森岡（1969）では、中村正直訳『自由之理』（明治5、原典：J.S. Mill、On Liberty）、西周訳『利学』（明治10、原典：J.S. Mill、Utilitarianism）等の明治初期の作品に『英華字典』の影響が大きかったとされる。

【参考文献】

- 森岡健二（1969）『近代語の成立 明治期語彙編』明治書院
 飛田良文・惣郷正明（1986）『明治のことば辞典』東京堂出版
 朴 均徹（1998）「『哲学字彙』の訳語に関する一考察—「Eの部」を中心に—」『国語国文研究』110

〔付記〕 本稿は、第168回近代語研究会大会（1999.10.29、於愛知淑徳大学）にて、口頭発表したものに修正を加えたものである。席上、飛田良文先生をはじめ、貴重な御教示を下された多くの先生方に改めて感謝申し上げる次第である。

（ぱく きゅんちよる・北大大学院博士課程）